

乾しいたけ品評会で大槌町の生産者が入賞

1 全農乾椎茸品評会で農林水産大臣賞及び 岩手県乾しいたけ品評会で最優秀賞

平成28年6月に埼玉県で行なわれた全農乾椎茸品評会において、大槌町の生産者 兼澤平也さんが「花どんこ」の部で農林水産大臣賞を受賞しました。

また同じく6月に震災後、5年ぶりに開催された岩手県乾しいたけ品評会において、大槌町の生産者 三浦蔵七さんが「こうしん」の部で最優秀賞を受賞しました。



（6月29日沿岸広域局長を表敬）

2 大槌町の原木しいたけ生産について

大槌町は、震災後の放射性物質影響で平成24年4月25日に露地栽培原木しいたけについて国の出荷制限指示を受けました。

出荷制限地域の生産者が生産を再開するためには、それまで栽培していたホダ木の処分とホダ場の落葉層の除去や跳ね返し防止シートの設置など放射性物質低減対策を行なわなければなりません。大槌町では、高齢の生産者も多かったこともあり、震災前43名いた生産者のうち、現在、出荷制限解除

となり生産を再開している生産者は15名です。

今回受賞した二人の生産者も震災前から原木しいたけの生産を行っており、二人とも放射性物質低減対策などの様々な苦労を経て、平成27年4月10日に出荷制限解除となり、生産された乾しいたけが今回受賞となりました。

3 今後の課題

今回受賞された二人の生産者だけではなく、当管内の原木しいたけ生産者のほとんどが高齢者です。地域にすばらしい技術を持つ生産者がいる一方で、その技術を引き継ぐ、後継者不足が懸念されています。

すでに生産を再開された生産者及び今後再開を考えている生産者に対しては、引き続き放射性物質対策に関する指導、支援を行いつつ、今後の原木しいたけ生産を支える新規生産者の確保について、市町や農協等と連携し検討を始めたいと考えています。



（兼澤平也さん(左)、三浦蔵七さん(右)）